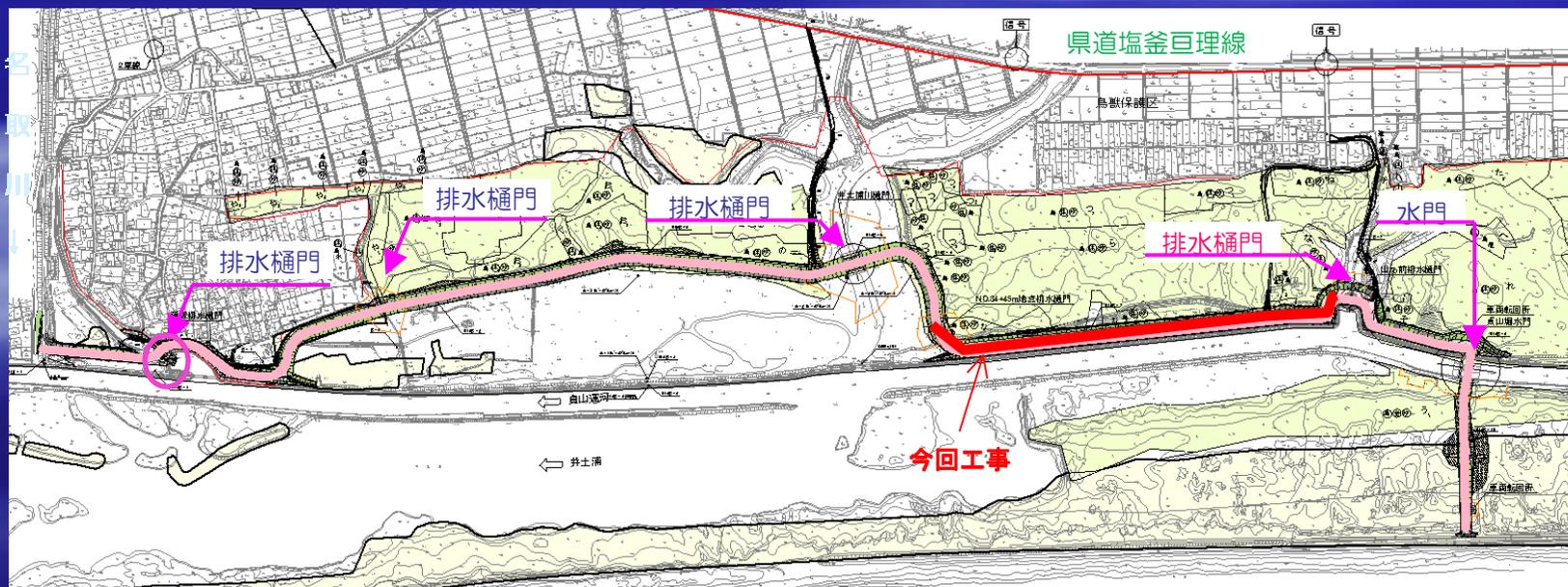


地震発生時とその後の対応等における体験談 その1

株式会社深松組

地震発生時は仙台市若林区藤塚地区で築堤工事をおこなっていました。
施工場所は貞山運河沿いの太平洋に面した場所での施工でした。

現場平図面と航空写真



震災前の状況写真

着工前写真(平成22年5月頃)



進捗写真(平成23年2月末)



震災前の藤塚地区の航空写真(平成21年3月31日)



震災当日の避難経路



震災発生後の航空写真(平成23年4月6日)



震災発生後の現地写真(平成23年3月14日)



震災発生後の現地写真(平成23年3月14日)



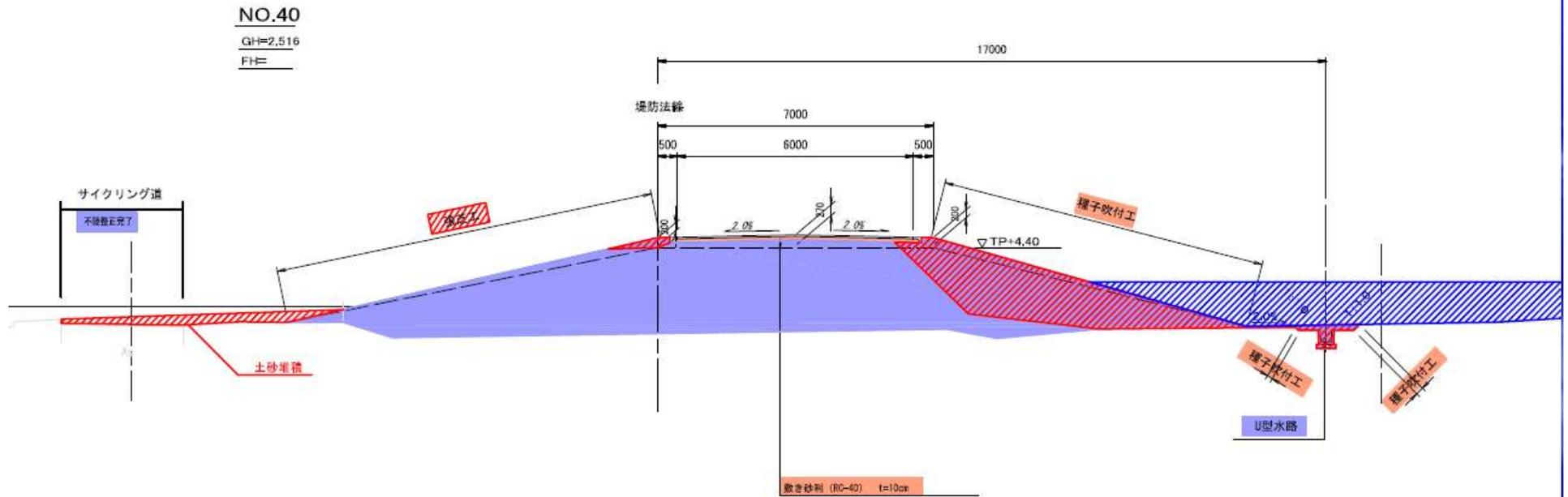
震災発生後の現場写真(平成23年3月16日)



震災発生後の被災機械等写真



暫定堤防復旧断面図



被災状況写真



暫定復旧完了写真



被災状況写真



暫定復旧完了写真



平成23年4月9日より亘理郡山元町の仙台湾南部海岸中浜第1工区緊急復旧工事に従事しました。下記の航空写真は4月6日付の航空写真です。赤ラインの位置にTP+2.00mの高さで高潮対策の仮堤防を施工する工事です。



震災前の現地写真 (Googleより)



4月12日発注者との合同現地踏査時の写真



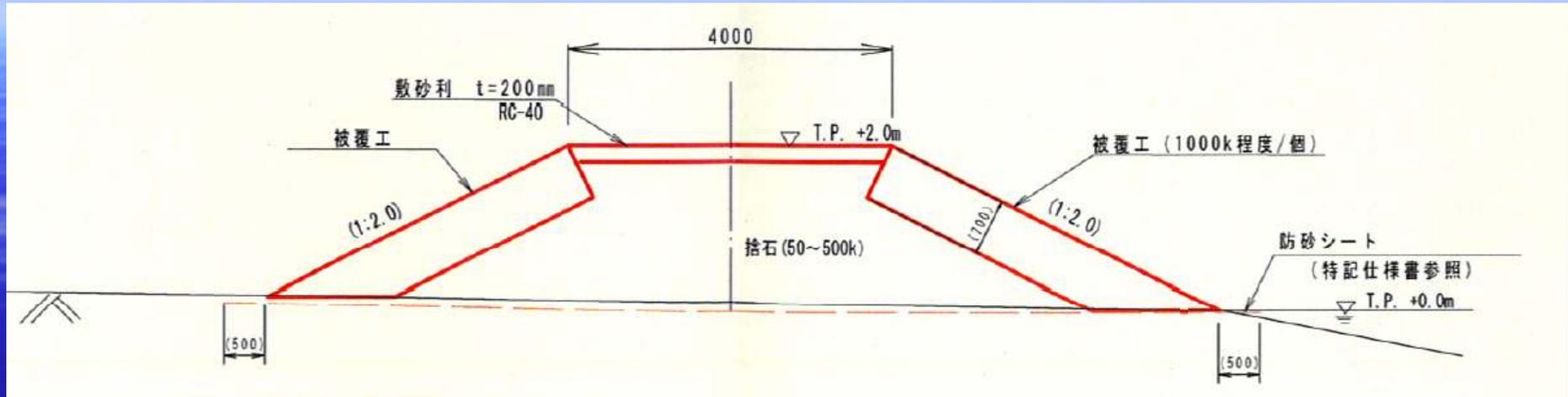
4月12日発注者との合同現地踏査時の写真



4月12日発注者との合同現地踏査時の写真



仮堤防を捨石工でT.P.+2.00で高潮対策を目的として復旧し、
今後の本復旧時に仮設道路として利用します。
(標準断面図)



仮堤防工(捨石)施工状況写真



仮堤防工(捨石)施工状況写真



仮堤防工(捨石)施工完了写真



仮堤防工(捨石)施工完了写真



仮堤防工(捨石)施工完了写真



まとめ

1. 現場で作業をしていた時、揺れの激しい地震が発生した場合は、すぐに作業を中止し、身を低くし地震がおさまるまで待機する事がのぞましい。現実問題として、今回は作業が出来るような状況ではなかった。
2. 地震がおさまった後は、今回の地震の時は作業箇所付近に駐車していた車両のラジオで情報を得た。
震災後は、沿岸部での作業を行う時は携帯ラジオを携行し、常に電源ONの状態で作業を行った。現場で稼働するバックホウもラジオの電源をONの状態で作業を行った。今後の作業に関しても励行するようにしている。
3. 今回の人事は、初めて大津波警報という情報を得たため、現場では直ちに避難させることを優先、作業を中止し地震による現場への被害等の確認をせず各作業員を現場事務所より約2.5km西方にある仙台市立六郷中学校まで避難し、その日の作業は困難と思い沿岸沿いは避け解散帰宅させた。
4. 通信連絡網に関しては、地震発生直後は携帯電話は通じたが、その後は不通の状態が続き、発注者との連絡も取れない状態が続いたが、運がよければという感じでつながる場合があった。その他携帯のメール又は、メールアドレスがわからない場合でもショートメール等が有効的だったように思われる。

5. 3月11日の震災後で湾岸沿いで作業する時は、先ほども述べたが常に情報を得る為に、携帯ラジオを携帯することを励行するようにした。
6. 中浜第1工区緊急復旧工事では、現場に乗り入れる車両を出来る限りに作業箇所に駐車し、車両の駐車方向を進行方向に向け駐車した。
7. 同じく中浜第1工区緊急復旧工事では、震災時の経験から避難経路・一次避難場所の選定が重要と感じ、現場近くの社台ファーム山元トレーニングセンター付近を選定し、避難訓練等を実施した。
工事期間中は、津波注意報が発令された地震が1回あり、上記の体制をとっていたため、支障なく作業の中止・退避行動がとれた。
また、発注者及び本社との連絡については、電話連絡はやはり繋がり難い状況であったが、震災時ほどではなかった。
なお、工事期間中に緊急地震速報が発表された地震も発生したが、慌てることなく対応できた。